

経済マンスリー [原油]

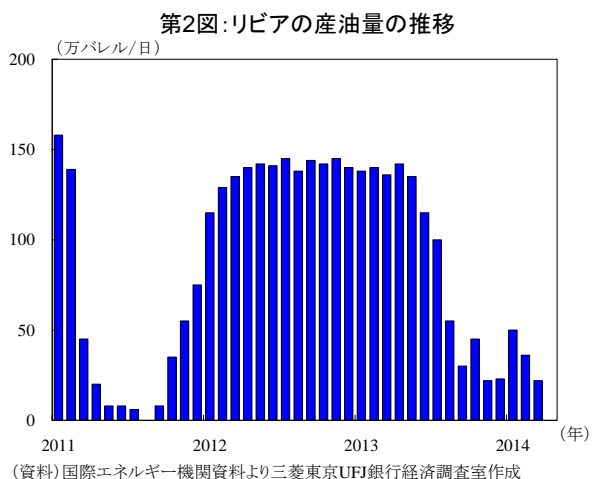
OPEC はリビアの生産回復ペースを注視

原油価格 (WTI 期近物) は、中国の景気減速懸念や米原油在庫の増加観測を受けて、3 月末の 101 ドル台から 4 月初めには一時 99 ドル台に下落した (第 1 図)。しかし 4 月 3 日以降は、ウクライナ情勢の緊迫化やリビアの原油輸出再開に対する懐疑的な見方、米国のガソリン在庫減少等を受けて原油価格は上昇傾向を辿り、4 月半ばに 104 ドル台と 1 ヶ月半振りの高値に上昇した。その後は、ウクライナおよびリビア情勢、堅調な米経済指標が買い材料となる一方、米原油在庫増加が売り材料となり、原油価格は 100 ドル近辺に軟化している。

ウクライナ情勢を巡る地政学リスクが大きく意識されているが、足元ではリビアの原油輸出再開に関する情報も、原油価格の動きに影響を与えている。

リビアでは 2011 年に内戦状態が続き、原油生産量は一時ゼロまで急減したが、内戦終結に伴い生産が再開され、2012 年 3 月～2013 年 5 月は 140 万バレル (日量、以下同様) 前後と内戦前に近い水準で推移していた (第 2 図)。しかし 2013 年 6 月以降、主要輸出港で労働者によるストライキが頻発し、輸出が大幅に減少したことから、生産量も落ち込んだ。その後、反政府勢力や部族勢力も抗議行動のために港湾や油田の占拠を行なったことから、生産量はさらに大きく減少した。今年に入り生産量は 50 万バレルまで一旦回復したが、3 月は 22 万バレルに落ち込んでいる。4 月に一部の輸出港の稼働が再開されたが、国内最大規模の輸出港は依然として封鎖されており、これまでのところ全面再開の目処は立っていない。

仮に、抗議行動が沈静化して原油生産が本格的に回復した場合、現状から約 120 万バレル増加することになる。現在の OPEC 生産量の約 4% に相当する規模であり、米シェールオイル等の増産が見込まれるなか、世界的な供給超過による原油価格の下押し圧力を避けるべく、OPEC はリビアの生産回復のペースを注視し、機動的に生産調整を実施するとみられる。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 宮城 充良 mitsuyoshi_miyagi@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。